

第1回日進市一般廃棄物処理基本計画策定委員会運営部会 議事録

- 日 時 令和2年10月8日(木) 午前10時から
- 場 所 日進美化センター1階会議室
- 出席者 小林敬幸(部会長)、原理史、井上真、松原和均(代理 鈴木正彦)、山内昭子、水野寿人
- 事務局 近藤伸治(環境課長)、山田和典(環境課主幹)、岩城佳寿(環境課資源循環係)
- 傍聴の可否 可
- 傍聴の有無 なし
- 次 第 1 あいさつ
- 2 議題 アンケートについて
- 3 その他
- 配布資料 資料1 委員名簿
- 資料2 アンケート調査骨子(『「令和3年度日進市一般廃棄物処理基本計画」策定に向けたアンケート調査の骨子及び設問設計理由』)
- 資料3 アンケート調査票(案)(「ごみ・生活排水に関するアンケート調査 ご協力お願いします」)
- 資料4 (参考資料) 読売新聞記事

発 言 者	内 容
事務局	おはようございます。皆さまおそろいですので、早速始めさせていただきたいと思います。雨で足下の悪い中、ご出席いただきましてありがとうございます。狭い会場ということで、パネル等あり、窮屈で大変申し訳ございませんが、よろしく願いいたします。

事務局	<p>では会議を始める前に携帯電話のほう、どうか鳴らないようにご配慮お願いいたします。また 10 月いっぱいクールビズということでノーネクタイで、よろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは、ただ今より第 1 回日進市一般廃棄物処理基本計画策定委員会の運営部会のほうを開催いたします。</p> <p>まず資料のほうからご確認させてください。お送りしました、資料ですね。資料 1 ということで、委員名簿です。運営部会の名簿です。そして、二つ目ということで、資料 2 のアンケートの調査骨子です。そして、資料 3 でアンケート調査票です。p 13 の調査票があって、その後に読売新聞の記事が 2 枚あるかと思いません。そして本日、卓上に配らせていただきました資料 5 ということでコスト比較表という形になります。不足ある方、挙手をお願いします。</p> <p>それでは本日の定足数についてご報告させていただきます。一般廃棄物処理基本計画策定委員会運営部会の委員定数 6 名に対して 6 名出席ということで、会議が成立していることをご報告いたします。また、部会については原則公開となりますのでご了承ください。それでは、議長は部会長が行うということで、お願いしておりますので、小林会長よろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
部会長	<p>皆さん、おはようございます。部会長小林でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>この部会はアンケートの内容をしっかりと議論して、実行あるいつもの計画に結びつけるために非常に重要な内容と思ひますので、ぜひ忌憚のない本音の意見をぜひ出していただひいて、活発に協議していただひいて、いい内容にしていけるという会にしたいということでよろしくお願ひします。</p> <p>それでは、第 1 回目の運営部会を開催いたします。本日の傍聴人はいらっしやいますでしょうか。</p>
事務局	傍聴者は 0 名となっております。
部会長	<p>分かりました。</p> <p>それでは議事を進めたいと思ひます。議題「アンケートについて」の協議を行います。事務局、説明をお願ひします。</p>
事務局	資料の 2、『「令和 3 年度日進市一般廃棄物処理基本

計画」策定に向けたアンケート調査の骨子及び設問設計理由』をご覧ください。前回の計画の見直しの際に、市民の方がごみ処理についてどのように考えているかを聞かせていただいて、ごみ減量の方策を見出すためにアンケートを実施しました。前回のアンケート結果を踏まえた計画見直しに伴って、埋め立て処理場削減のため分別方法の変更、燃えないごみを止め、金属類・陶磁器・ガラスの分別収集の実施へと結びつけて、資源リサイクルの推進に取り組んできました。今回の見直しの後は焼却処理場の削減として、燃やすごみの量の削減を進めていきたいと考えております。そのための方策といたしまして、「A 水分の削減」、「B 食品ロスの削減」、「C 紙類の分別」という三つを方策として想定しております。今回のアンケートでは、このAからCの方策に関連した質問を設定して、計画の見直しのための基礎資料として、市民の考えや行動傾向の把握をしたいと考えております。なお、AからCに関連する質問以外にもその他として、今後の施策の参考とするための設問も設けています。資料2では、各設問がA・B・C・その他のどれに関係しているかということに加えて、設問の設定理由も簡単に記載させていただいております。

続いて、資料3のp13「ごみ・生活排水に関するアンケート調査ご協力のお願い」をご覧ください。本日の部会では主にこのアンケート案についてご意見を頂きたいと思っておりますけれども、こちらの全体の構成といたしまして、大きく4つに区切られております。まずp1の「あなたご自身のことについてお伺いします」、p2の「あなたのごみ減量やリサイクルの取り組みについてお伺いします」、次がp9、「市のリサイクル事業についてお伺いします」、最後がp10で「市のごみ収集サービスについてお伺いします」。大きくこの4つに区切らせていただいております。まずp1の「あなたご自身のことについてお伺いします」では、回答者の方の世帯の状況などについての設問です。年齢区分、構成人数、職業、持ち家、お住まいの地区などにより、どのような違いがあるのか、前回同様に比較するための設問となっています。続いてp2下段の「あなたのごみ減量やリサイクルの取り組みについてお伺いします」は、市民のごみ問題に対する意

識や取り組み状況を把握するための設問を設けてあります。設問が問 10 から問 16 までありますが、関連がある設問をいくつかまとめて説明させていただきます。まず問 2 から問 5 ですが、問 2 ではどれぐらいの方が地球規模での環境負荷を意識しているかということについて、新しく設問を設けました。その他に、ごみ減量への取り組み、市内におけるリサイクルなどに関する取り組みの認知度の設問を前回同様に設けております。問 5 では、前回の計画見直し後に実施した施策の評価について、意見を伺うために新しく設問を設けました。続いて、問 6 から問 10 は、地域での資源回収活動や新聞紙の処分方法に関する設問です。今、回収している資源の中で、新聞・雑誌・雑紙などの紙類の回収量が減っているため、新聞そのものが少なくなっているのかどうか、またどのように処分しているのかについて、状況を把握し対策を検討するための設問、これを新しく設けました。続いて、問 11 から問 14 です。問 11 は市民が実行している取り組みについて把握するための設問を前回と同様に設けています。設問の各項目の行動に取り組むことで、施策の A から C に結びついて、ごみの焼却処理量の削減につながると考えています。こういった行動に取り組んでいないとすれば、その理由は何なのかを把握して対策を考える必要があります。問 12 から問 14 については、電動生ごみ処理機やコンポストの利用状況、最近、話題となっている食品ロスについて新しく設問を設けました。次いで、問 15 から 16 です。問 15 では、分別方法の効果的な周知についての情報を得るために新しく設問を設けました。問 16 では、生活排水についての取り組みを確認するための設問を前回と同様に設けております。続いて、p 9 の「市のリサイクル事業についてお伺いします」、こちらは市の資源回収について意見を伺うための設問です。問 17 から 19 では、資源回収拠点や集積所で紙類を収集することについて、市民の考えを伺うための設問を前回と同様に設けています。最後の p 10 「市のごみ収集サービスについてお伺いします」は、今後の施策についての参考意見を把握するために設問を設けました。問 20 から問 23 についてですが、問 20、21、22 は分別方法や収集回数、ごみ袋の価格などの設問を前回と同様に設けて

います。問 23 は、ごみ袋の大きさについて新しく設問を設けました。問 24 から問 27 につきましては、個別収集に対する考えを伺うための設問です。ステーションでの収集や個別収集については、市民の方の関心が高い事項ですので、市としても継続して市民の方の意向を把握していきたいと考えており、設問を前回と同様に設けています。問 28 から 29、こちらについては市の取り組みに対する希望の把握や、効果的な収集方法についての情報を把握するための設問を、前回同様に設けております。

それでは続きまして、資料 4 の説明をさせていただきますと思います。資料 4 ですが、4-1 と 4-2 という 2 枚ございます。内容としましては、粗大ごみの削減のため、現在は可燃ごみや不燃ごみとして処理されているバケツなどの硬質プラ、これらをプラスチック製容器包装と同時にプラスチック資源として回収、そしてリサイクルをする方向で市町村ごとに独自で取り組んでいたものを、国が一括して推進するというような案になっております。日進市においても、今後国からの情報だけでなくリサイクル事業者の方にも情報を伺いながら、進め方を検討していきたいと考えております。

続きまして、本日、机の上に配らせていただきました資料 5 です。資源回収を止めた場合にコストがどれくらい変動するかということのコスト比較表となります。こちらは、前回 9 月 7 日、策定委員会の中で頂いたご質問で、資源化には費用がとてかかるならば、資源の回収を止めたと仮定した場合、どれくらい変わるのかということで作成をしたものです。資源として回収しているプラスチック製容器包装やペットボトル、これらの回収を止めてごみとして出してもらうとどうなるのか仮定したものです。一番上の塵芥収集業務委託料ですが、こちらはごみとして収集する量が増えるため、従業員の単価を求めた上で算出した概算額ということで、それぞれ止めた場合にどうなるか算出したものです。そして、4 段目から 6 段目ですけれども、これらの経費は回収を止めることで費用が削減されるというものであります。一番下から 4 段目ですけれども、尾三衛生組合負担金につきましては搬入量が増えることとなりますので、増額する場合、負担

	<p>金がどれだけ増えるか算出をしております。結果としましては、プラスチック製容器包装のみ収集を止めた場合は、約 4370 万円減額、そしてペットボトルを止めた場合、240 万円減額、そして両方止めた場合には 4600 万円程度減額が見込まれるというものになります。ただ、先ほどの新聞記事の資料なども踏まえると、現在市民の取り組んでおるものについて費用が掛かるとしても、資源化は進める必要があると考えております。なお、昨年度本市の、行政改革推進委員会において事務事業評価というものがありませんでした。この中で、週 1 回で収集しているプラスチック製容器包装について、例えば隔週とすることで空いた週に紙類の収集を開始することなどについて、今回の計画見直しの際に検討することを予定しております。例えば、プラスチック製容器包装の収集回数は減らさずに、紙類の収集を始めるとすることも検討しながら、今後委員の皆さまにご意見を伺い、進めてまいりたいと考えております。議題 1 の説明は以上となります。</p>
部会長	<p>ありがとうございます。 最後におっしゃったことは、私は初めて聞いたのですが、それについて議事録のようなものはあるのですか。</p>
事務局	<p>議事録もございます。</p>
部会長	<p>重要なところですので、紙で渡してもらえると。いつどのタイミングで決まったのか、方向性など、すぐ決まったのか、それだけはっきりしていただくことは大変大事だと思いますが。決めることはもう決まったのですか。</p>
事務局	<p>委員会の中で各委員の意見を集約して、どのような方法で進めると良いかを考えてくださいという意見を頂戴したということになります。</p>
部会長	<p>どれくらいの拘束力というのがあるのですか。それが分かりません。</p>
事務局	<p>決定事項ではございませんので「検討をしてください」というような形で、答申をもらっているという状況です。</p>
部会長	<p>それをしないとどうなるのですか。</p>
事務局	<p>検討はすべきだと、我々事務局サイドも考えています。検討した結果がどうなるということまでについては拘束されるものではないと、理解しております。</p>

	<p>会議の位置付けは、市が行っている各事業の事務事業評価の一環として外部により一部の事業を毎年評価しているわけなのですが、その中で必要な事業、このまま継続していくべきか、廃止するべきか、もう少し新しいことを考えていくべき、発展させるべき事業かということを行革委員会の中で、毎年4、5件の事業を毎年外部評価という形で評価いただいています。その中で、この環境課における事業として、このプラスチック類などのリサイクル事業についての経費がかなり高額であるということで、この部分を諮るということでご説明させていただきました。会議の中ではコストがかかっていますけれども、環境保全に非常に必要な事業だということで、継続して行っていくべきだにご意見をいただきましたが、もっと減量をするのであれば、どのような対策があるかということの中で、組成調査において紙製容器包装などが多く含まれていることから、今後どうしていくかということを検討していきたいと、その会議の中ではお話しさせていただきました。前向きに検討していくという形でその会では位置付けがされたということです。</p>
副部会長	<p>結局、文章で保存されているわけですよ。その文章を根拠に、ここで検討する必要があるのかどうかを含めてここで話題に出たので、それは各情報共有しないとまずいのではないかと思います。今はないんですよ。</p>
事務局	<p>議事録はお配りさせていただきます。ホームページでも公開しておりますので、今からプリントしてまいります。</p>
部会長	<p>分かりました。ありがとうございます。今の状況を知らない。前半部分をお聞きしましたがけれども、後半部分はちょっと驚いたので。</p>
事務局	<p>この制度は、環境課から、ぜひ、評価くださいというよりも、いろいろコストのかかっている事業の中身を外部の方にそうやって審査していただくというものです。</p>
部会長	<p>それは、非常にいいことだと思いますが、紙のほうとのセットだとは今日初めて聞いたものですから。</p>
事務局	<p>そうですね。一応、そこの中で出たのは本当にこのプラスチックを今後進めていくか、もっと他の部分の再資源化を進めていくか、という部分に話がいったも</p>

	のです。
部会長	はい、それでは皆さまからのご意見を、順不同でどこからでも結構です。
委員	p 1 の問 1 - 7 「あなたのお住まいは、次のどれにあてはまりますか」というところで、マンションにお住まいの方はどれを答えれば良いのか。
事務局	マンションはどこを選択すればいいかということですね。3 番。
委員	これは賃貸と書いてあるので、賃貸ではなく。
事務局	分譲の場合ということですね。賃貸といっても、実際集合住宅でも分譲でも集積所は差がないです。それだったらあえて賃貸と書く必要がない。賃貸を取れば良いかと思います。
委員	そうですね。ただ、ごみだけのことをお話しすると、前回の会でもちょっといたのですが、賃貸アパートのようなところとちゃんとそこに定住されている方のごみの質は大分違うので、もしできればそういうところが見えるといいなと思いますが、どう表記すればいいかは全く分かりませんが。
事務局	差が出るかもしれませんので、集合住宅の分譲を追加させていただきます。 少しよろしいでしょうか。1 点、ご報告させていただきます。
事務局	事前に、策定委員の方にもお送りして、ご意見をお伺いしたところ、ご意見をいただいたので、ご報告します。p 6 問 11 の「普段の生活における取り組みについて」(2)「ティッシュやちり紙の代わりにハンカチやタオル、雑巾を使用するようにしている」というところがありますけれども、年代によってちり紙というのが何か分からない人もいるのではないかと、説明を入れたほうが良いのではないかとご意見がありました。ちり紙ではなく、例えばペーパータオルなどにした方が良いでしょうか。
部会長	取ってしまえばいいのではないですか。ティッシュで分からない人はいますでしょうか。
事務局	ちり紙というのは今の世代の方たちに分からないかと。では、ティッシュなどの代わりにハンカチやタオルという形にさせていただきたいと思います。
事務局	策定委員の方のご意見は以上でした。
委員	まず 1 番からいくと、最初の「あなた自身のこと」

	<p>でどこに住んでいるかだとか、今言われたようにマンションとかあったのですが、この問1-5は「あなたは家庭内でごみの仕分けや排出を担当されていますか」というのはここにあるべき項目なのかということで、これ以外のことは自身のことで書けるのですが、これは答えようと思うと非常に答えづらいです。「仕分けや排出を担当されていますか」と、主に担当しているのか、少しでも担当していれば「はい」なのかということが非常に答えにくいです。ごみの仕分けを担当していない人は逆に言えばほとんどいないので、「はい」は「はい」なんですけど、非常に分かりにくいという意見を頂きました。「担当されていますか」って、多少なりともやっているけど、どういう意味なのか。</p>
副部会長	<p>多分、これは分別が始まった時に、家庭内でごみに関する主導権を握っている人が誰かということを判別するための項目で入ったと思います。</p>
委員	<p>逆に見たら「主に担当されていますか」とか何かがないと、単純に「担当されていますか」って、今の世の中、もう99%当たり前のことなので、ちょっと分かりにくいということがありました。</p> <p>後、相対的にちょっと回答する側に立つと、無作為に3000人とあったのですが、お年寄りの方とかも全部無作為に行くわけですね。では、前はどうか。普通のアンケートからすると量が多いのではないか。その後は、「ごみの削減をするために実施するものです」と書いてある割には全体的にいろんなことがちょっと細かすぎると思います。</p> <p>また、無作為というのは外国人も入るのでしょうか。日本人だけに配るのでしょうか。集合住宅の賃貸ですと、ごみの捨て方について、外国の方に何度も注意しても直してくれないことがあります。地域で99パーセントの人がちゃんとやってくれていても、非常にマナーが悪い方がいます。そういう人たちにも分別などを教えることが必要かと思いました。そういう人にもかなり協力してもらっていかないと、なかなか進まないところがあるので、そういう人もターゲットにしてやっていくといいかと思います。</p> <p>豊田市の場合は、エコドームのような施設がたくさんあります。そういったものがもっとたくさんあると</p>

	<p>利用しやすいなと思います。</p> <p>次に、問 11「資源回収について」、項目が「エコドームを利用して」とかペットボトルうんぬんあるのですが、逆に言うと「あなたの取り組み」でここに「いつも取り組んでいる」とか「大体取り組んでいる」とかが真ん中であって、その右側が「2～3を選んだ方にお聞きします」とあるのですが、「大体取り組んでいる」とか「時々取り組んでいる」を選んだ人が右側を答えるわけですね。エコドームを利用していない人、逆に利用したいけど利用できない理由がある人は相当いると思います。ほとんどが遠いか持っていくのが面倒だとか、そういった理由が多いのですが、逆にこういったところが家庭内だと取り組んでいるのに、2または3というのはエコドームを利用しているのにここへ書けという記載です。</p>
事務局	<p>そうですね。完全にいつも使っている人以外の人使わない時にどのような理由で使わないんですかという問いです。</p>
委員	<p>そうです。だから逆に言えば、利用していないからどうしたら利用できるのか、そちらを集中的に持っていくような意味合いのほうがいいのかなど。この項目に限らず他にも若干ありますが、そのような形に持っていったほうが良いと思います。また、最終的に「このアンケートにその他思うことがあったらご記入ください」、よくアンケートだと「ご自由にお書きください」という欄をどこか追加してほしいです。</p>
事務局	<p>自由意見欄ですね。最後に付けることを考えています。</p>
委員	<p>分別がしたいのか、削減をしたいのか、その辺が分かりづらいところがあります。あれもこれもいろいろ入ってしまっていますから、ボリューム的にもあるし、ちょっと分かりにくいかなという。あくまで総括的な意見です。</p>
部会長	<p>ありがとうございます。最後のご意見は、アンケート協力をお願いの下の方に書くということですね。何のためにこのアンケートを取るか、p 2の最後の「あなたのごみ減量やリサイクルの取り組みについてお伺いします」とありますが、このアンケートの狙いはどこなのかということは最初にきちんと書いたほうが良いですね。メッセージとして最初に送ったほ</p>

	うが分かりやすいと。ありがとうございました。
委員	日進市の場合、冒頭、前回もらったこのごみの出し方のガイドブックで皆さんやられていると思うのですが、これはちなみに外国語版とかあるのでしょうか。
事務局	それはあります。
委員	それはそれぞれに配っていますか。
事務局	ご希望の方にお渡ししています。
委員	それは日進市役所に行けばもらえるのですか。
事務局	環境課の窓口にあります。
委員	一体的な家庭はこれが大体配られますよね。
事務局	基本は日本語です。
委員	日本語ですよ。それ以外の言語はもらいに行くしかないですか。
事務局	はい。
部会長	インターネットではやっていないのですか。
事務局	やっています。
部会長	例えば、中国語版はどこにいてもQRコードとか、そういうことは全然配慮していないのですか。
事務局	QRコードにはしていません。
部会長	すぐにアクセスできるようにすると良いと思います。
事務局	そうですね。例えば、袋とかにでもそういうQRコード付けるとかというのは今後、新たに必要かもしれないです。
委員	その通りにいけるかといったら、なかなかそうは行かないですよ。
事務局	そういう各戸の状況の把握というか、確かにそこまで至っておりません。
部会長	でも、このアンケートは日本語だけですよね。
事務局	そうです。先回も、特にそういう区分けはしていませんので、日本語バージョンしか作っておりません。
	ガイドブックはホームページにも英語版、中国語版を載せております。
部会長	それであれば、後はしっかりアクセスしやすくするということが大切です。
事務局	一番下まで行かないと見られませんので、もう少し見やすくするように考えます。
部会長	そういう意味でもQRコードというのはいいですよ。

事務局	アンケートの外国語版が必要でしょうか。
委員	そこまでは必要ないのですが、やはり日進市の外国の方の割合的には1割、2割はあるのか、どうなのでしょう。
事務局	増えてきていることは確かですので、実際にやはり集積所の管理をしていると、なかなかそのところで言葉の壁というのがありますので。
委員	そうですね。言葉の壁があって、うまく行かない部分もあるので、そこを減らしていこうと思ったら、やはりやっていくといいのでは。
事務局	実際に回収いただいている事業者の方で、大変ご迷惑かけている話ですので、そこをどうやって乗り越えていくかということは必要です。 今回のアンケートにつきましては日本語版のみとさせていただきます。
委員	アンケートの評価と実際の評価は、分けなければいけないですね。
事務局	その辺は分けて決めさせていただきます。
部会長	たくさんご意見を頂きましたけれども、一つずつ議論したほうがいいので。
副部会長	様々な意見があるので、プライオリティがいるのではないかと思います。出た順の一つずつやっていったほうが良いとは思いますが。
部会長	一つずつやっていきましょうか。
事務局	まずp 1の問1-5ですね。「ごみの仕分けや排出を担当されていますか」ということで。
副部会長	これは何に使えますか。クロス集計に使うんですね。担当レベルである人とそうじゃない人で分けるという、そういうクロス集計ですよ。
事務局	そうですね、今のこの問だと中間がありませんので、○か×かのどちらかという分け方になります。
副部会長	中間を作るかどうかということもあるのと、この属性は一体何を意味しているのかということがあって。多分最初は分別が始まった時に「あなた任せ」の人と「そうじゃない人」がいるという意味合いがあったと思いますが、例えば去年だと、この分類のパーセンテージはどれくらいだとかというのは今分かりますか。要はですね、だんだん「担当されていますか」で「いいえ」と答える人が少なくなっているんじゃないかという想像があるんですよ。そうだとすると、そういった設

	問に意味があるのかとか、クロス集計をやっても片方がすごく少ないんだったらあまり意味がないのではないかという形もあり得ます。
事務局	前回のアンケートでは、「仕分けや排出を担当していますか」、「はい」が84.6%「いいえ」が15%。
副部長	ですよね。だとすると、そういうクロスに意味があるのかということ考えた時に、これはどうなんだということですよ。
事務局	例えばご夫婦2人のご家庭で、ご主人が答えるのか、奥さんが答えるのか、はたまた2人で共同で答えるのか。
副部長	「あなた自身のことについてお伺いします」と文頭にあるから、基本一人で答えるということだと思うんですけども、それを最初に書いてなければいけないと思いますし、属性、だから「あなたの職業」とかって書いてありますし、基本一人が答える形式になっていますから、それは大丈夫だと思います。例えば、仕分けや排出うんぬんというのは果たして要るのかどうかというところは、疑問が残ります。おっしゃるように、「そんなやっていない人はいない」という考え方は確かにあって、そういう意味で言うと、これはなくてもいいのかもしれないと思えます。1問でも減らせれば減らしたほうが良いと思いますので。
事務局	そうですね。先ほどもお話ありましたが、大分量が多いというところはありますので。
副部長	それからもう一つ、次のご指摘で理由を問うところがあると思います。2から5までの間というふうに見ていますが、これは2から3は違うのではないのでしょうか。
部長	全部、半分肯定している人がお答えするようになっています。
事務局	これは、2から3というのは間違いで、太枠で囲ってある2から5ですね。ちょっとでも取り組めていない理由は何なのかという。
副部長	もしそうだとすると、わざわざ2から5と書く必要は全くなくて「取り組んでいない場合は理由をお答えください」でいいのではないのでしょうか。それで十分だと思うし、本当を言うと、これはうまく選択肢を作れば一番いいのですが、これはネガティブなイメージになるので。

委員	どうなれば取り組めるかという導きということですよね。
副部長	そういう意味で、面倒でなくなるとか。
委員	結局、何が課題なのかということですね。
副部長	手段が楽になるとか、みたいなそういうポジティブな選択肢に直るようであれば、そちらのほうが動機付けとしてはいいと思います。
委員	何が解消されれば取り組めるかということですよね。
副部長	そういう聞き方のほうが本当はいいんです。ただ、難しいは難しいと思います。「こういう条件だったら、より取り組めるようになると思われるものに○を付けてください」みたいな、そんな言い方で選択肢を考えるという方法のほうが、多分個人的に書いていただけるとは思います。
事務局	そうですね。面倒なところを選択するというのも、ネガティブになりますので。
副部長	非常に抵抗があるはずなんですよ。そういう場合は、そう書けないようにするためには、個人的にみんな、全体的に見直したほうがより回答率は。
事務局	分かりました。検討してみます。
副部長	結構、このパターンが多いので。
事務局	全体がそうですね。
副部長	理由なので、そういう場面がないというような。すぐに作れというと、これはちょっと難しいですね。そこまでは言いませんが、いずれにしても2から5という意味合いはあまりないのではないかと思いますので。 後、言葉ですね。「手段がない」、「時間がない」、「面倒くさい」。なかなか難しいですね。書くほうにとって、そこはちょっと丸を付けづらいでしょうね。その言葉の選び方はちょっと検討したほうがいいかなと。
事務局	できるだけネガティブな印象を持たれないように検討します。
副部長	それからもう一つ、ご指摘のあった自由記入欄の件なのですが、最後に○○というのは付けていいと思うのですが、例えば、ある程度固まりごとに減量やリサイクルの取り組みの部分で、日頃思っていることをまとめたほうがいいかなと。最初にあったほうがいいと思っていて、その上で「では、各設問にお答え

	<p>ください」というふうにすると、多分、自分の考えを整理する人がそこで整理できると思います。そう言われた場合、実際に仕上がった時に書きづらくなっている可能性もあるので、ちょっとこれはアイディアレベルにしてほしいのですが。こういうのは、誌面の構成の都合もあるのでなかなか難しいとは思うのですが、そういう方法もあるかなと。</p>
事務局	<p>全体を大きく4項目に分けましたので、最初にご自身のことを書き、2項目目、3、4とその項目ごとというのもありかなと思ったのですが。</p>
副部会長	<p>そういうことが言いたかったです。</p>
事務局	<p>始めのところでまず書いていただくかという。</p>
副部会長	<p>どっちがいいか微妙ですね。後のほうがいいかもしれません。</p>
事務局	<p>スペースの問題もありますが、この項目を大きくグループごとと考えていきたいです。</p>
副部会長	<p>ついでで申し訳ないですが、4部構成になっていますよということを、最初のページに明示してあげてください。どれぐらい、何を書けばいいのかということをも最初に分かるようにしてあげたほうが多分親切です。</p>
事務局	<p>分かりました。大項目の4つを載せるということですね。</p>
副部会長	<p>つまり目次ですね。「次の項目についてお尋ねしますので、よろしく願います」というのががあると親切だと思います。そうすると全体ページ数も分かるし、ちょっともらった時にこういうボリューム、こういう内容なんだと、まず認識してから始めることになりますから、そこで一番怖いのは、途中で面倒になって止めてしまったまま返されてしまうと、非常にデータが不完全なものになってしまいますから、それよりは浅く考えるだけでも全部やっていただいたほうが。そういうところを注意していただいたほうがいいのではないかと。</p>
事務局	<p>最初に確認いただいてから、選んでいただくということですね。最初に全体のボリュームが分かるように考えます。</p>
副部会長	<p>それは分かったほうが良いと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p>
部会長	<p>問の番号は抜けているところもあるのですが、29と</p>

	<p>ありますが、実質はこの倍ぐらいあるのですか。16まで答えても、まだ13もありますから。更に、ノーの人はまた更に書かなければいけないから大変な数です。だから、私でしたら「もう嫌」と思ってしまいます。これはどうなのでしょう。</p>
副部長	<p>よくこういうwebアンケートでも「5分程度でお答えになれます」と書いてあるじゃないですか。そういう、全体のボリューム感をどう伝えるかというのは重要なことだと思います。</p>
部長	<p>国勢調査でも今回、3分ぐらいでしょう。</p>
事務局	<p>今回は少なかったです。</p>
部長	<p>少なかったですね。これはまさに国勢調査と一緒に、webでも答えられるぐらいのボリュームにしないと、これは集計するのって。これはそのまま返すわけですね。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
部長	<p>手間もものすごくかかります。だからこの集計のコストはものすごいコストしかないです。コスト削減にもなっていませんから。</p>
副部長	<p>実を言いますと、前の調査との整合性ということはあるので、なかなか難しい部分はあるんですけど、それにしてもちょっと多いという印象ですね。多いというのは皆さん思われると思うし、例えばp8の16、これは本当に要るのかなという、正直思ったりするのですが。これは聞いてどうでしょうか。これは本当に要るのでしょうか。</p>
部長	<p>ちょっと聞いてみましょうか。委員の方、いかがですか。</p>
委員	<p>答えを「取り組んでいない」だとかというのは言っても良いと思いますが、その理由まで要らないのではないかなと。申し訳ないですけど、どうせここでやっていることはほとんど面倒くさいからやっていないだけなので、知らないからやらなかったというのは多分ないかなと。この右側の「取り組まない理由」は要らないかなと。ただ、こちらのいろんなこと、これからリサイクルであるとか、ごみ減に向けてやっていくこと、もっと言ってしまえば「やってほしいんですよ」ということなので、それはあえて聞いてもいいかなという気はします。</p>
委員	<p>私も冒頭で言ったように、やはりこのアンケートを</p>

	何のためにするのか、ごみの減量をやるんだったら今言われたようにこの p 8、「ヘアカラーの薬剤を流さない」とか、直接あんまり書いていないですよ。
部会長	これは水のほうです。
事務局	これは、排水のことについて触れなければということとで相違はあるのですが、ただ 13 項目まで要るかどうかというところですね。
部会長	これは先ほど言われたように「ここは水について伺います」ということをちゃんと書いていないから、そういうことになります。
事務局	そうですね。
副部会長	すみません、単純にごみの話はいろんな細かい施策が出てきているので、それはやれる話というのはいっぱいあるので、細かく聞くということはあるのですが、排水対策というのは実際やるという話がどこかにありましたか。そのところが理解できていないのかもしませんが、先ほどの排水処理の向上というところの設計理由とか、設計、骨子のところを見て、あまりピンときていないというのが正直なところですね。排水対策とは結局、下水処理して一括処理ですよ。後は負荷をどうやって減らすかみたいな話ですよ。その負荷を減らすというのが家庭レベルでやってほしくないこと、本当に負荷が高いやつは残せませんかという気がします。例えば、ビールを飲み残さないとか、そういう食品ロスにつながるようなベーシックな話を中心に、もう少し考えたほうが良くないでしょうか。
事務局	市ができる施策としては、公共下水の区域を広げるか、後は単独浄化槽を合併に変えていくとか、そういったことを推進していくということになると思います。今、言われたように、負荷を与えないようにするために、個人レベルで何ができるということがこの項目になってくるかと思っておりますので、そういう意味ではやっぱり負荷のかかる大きなものだけに絞るべきなのかなと思っています。
副部会長	もう少し言いますと、この程度の対策をやると、例えば処理場の何にとってどういうふうがいいのか、全く分からないじゃないですか。本当にそうなのかというのも含んでいるかと思っております。これをやったからどうなのと、あまり関係ないという話だったら、やる

	<p>意味がありませんし、本当に処理場のほうで「これはやってほしい」というのがあれば、絶対聞かなければいけないということが分かりません。「本当にそうなのか」と言われた時に。</p>
<p>部会長</p>	<p>下水だから流したらいいんじゃないですか。</p>
<p>副部会長</p>	<p>だから、いいんじゃないという、普通の人はやはり思いますよね。「そうやってお金かけて整備しているんだからいいじゃない」と、普通に思ってしまうので。「そうじゃないんだよ」と言うならそういう話をやはりしてあげる必要があると思います。これ、もちろん下水網が完備していなくて、それぞれのところでやってほしいという話だったり、学校があって、リンとか入ってしまったら困るという話だったりとかならば、話は分かりませんが、その辺がちょっとよく分かりません。</p>
<p>事務局</p>	<p>一応、今の計画の中にある基本方針の中に、その排水の部分の市民協働の推進という、意識啓発というところの位置付けがありますので、そういった部分がこれだけの項目で拾い上げているということで、こんなになくてももう少し違う方法はあるのかなど。</p>
<p>副部会長</p>	<p>次に聞き方だと思います。「意識の啓発が重要だと思ふことは次のうちどれですか」という聞き方なら分かります。だから、そういうふうに特化する必要があって、この聞き方はやってもらうためにはどうしたらいいかという聞き方なんです。でも、ちょっと効果の話、啓発すればいいというものではないというか、何でもかんでも啓発するのが正しいかというのは最近、私は疑問に思い始めているところがあるので、やっぱりプライオリティというものがあるだろうというところを思っている。というのはなぜかというところ、エコ行動ウォッシュになってしまわないかと思っていて。どういうことかというところ、現代は「これをやったから私はもういいんだ」みたいに思われると困るような世の中だと思います。例えば、問 16 に出てきた「私はヘアカラー洗剤を使っていないし流していないから、それだけで自分は行動しました」と思われるのは、ちょっと違うんじゃないかと。そういうこともあるので、優先順位という点からいっても、市民の人はこれを行動することが大事だと思っているということ、これを掴むことは、それはすごく意味があります。で</p>

	<p>も、実は本当の優先順位はこっちで、市民との思いが大分違っているということがもしあるとするならば、それは改善していく施策を打っていかねばいけないという考え方をしてくて、ちょっとそういう意味でこの項目は実際に対策をするという聞き方なので、それは本当に意味があるのかどうかということの整備が必要なのかなと思います。</p>
事務局	<p>「意識啓発を行うとともに、市民一人一人の取り組みを促進していきます」ということが計画の中にあります。</p>
副部会長	<p>ですから、その優先順位というのが要るんじゃないかという問題提起だと思ってください。</p>
部会長	<p>順番にすると申し上げましたが、やはり意見を先に言っていただきましょうか。</p>
委員	<p>やっぱり全体的に設問が多すぎて、明確な答えをピンポイントでもう少し少なくしてアンケートをしたほうがより分かりやすいんじゃないかと。細かいのももちろん分かるのですが、やはりあまり長くあっても、結局最後のほうはいい加減という言い方は悪いのですが。だから、部会長がおっしゃったように、ちょっと多すぎるのではないかとというのが率直な意見です。</p>
事務局	<p>削除を検討します。</p>
部会長	<p>個別はいかがでしょうか。</p>
委員	<p>先ほどの資料5とプラごみの回収を止めて、燃えるごみに回すというような検討をされているということも聞いたのですが、そうするとこの減量とこれを燃やすごみに持っていくというのを並行して進めていくというのが、あくまで検討でお金のかかることなので。そうすると、何となくちょっと矛盾するのではないかとこのもあります。それで、今、うちは三つの町、東郷、日進、みよしで運営しているのですが、うちにも資源ストックヤードとかあるんですよ。今まではペットボトルは回収していなかったのですが、ただ住民の方からの要望で回収してほしいという声が大きかったものですから、10月から始めたという経緯があります。日進さんも含めて相談してやり出したのを、また今度日進さんのほうでお金がかかるから止めたいという検討も入れているというのと、また今度矛盾が出てきてしまうのかなというの、少し感じまし</p>

	た。
部会長	その資料はそういう意図ではないです。
事務局	<p>最初にあった、外部評価ですが、今、資料を3枚お配りさせていただきました。当時の議事録で、先ほどもご説明させていただきましたが、「コストがかかっています」ということ。それで「この事業をどうしていきましょう」ということで、結論として日進市としては、プラスチック容器包装などのリサイクルについてはこれからも分別を進めていくという方向に固まりました。</p> <p>ホームページにて結果ということで公表しているものですが、令和3年度の一般廃棄物処理基本計画の改定時にプラスチックごみの回収を隔週にする、それから紙ごみの回収を開始することなどについて、詳細に検討し、計画に盛り込んでいきます、という回答をさせていただきました。本日の資料5につきましては、前回頂いた一つの質問に対して、ペットボトルだとかプラスチック容器包装を回収するには、どれだけの経費がかかっているのかということ資料として出させていただいたもので、結論としては、日進市は継続してリサイクルを進める考えで、止めるという議論は今のところは持っていません。よろしくお願いいたします。</p> <p>また一つ、追加でお話しさせていただきます。前回のあいさつの時にご説明させていただきましたが、今の尾三衛生組合のそれぞれの三市町が負担をしている分担金というのがあります。これの割合というのが、今までごみの入れた量とそれから人口割の2種類という、50%対50%という率になっております。今回、この率をそれぞれ尾三衛生組合に搬入する量を減らすことに努力した市町は、それなりに分担金に結果が反映されるように三市町に分別を進めていきましょうということで、その率の変更を行うという議案を、今回の9月議会で評決させていただきました。三市町とも賛成ということで可決しましたので、2月の規約改正の手続きを今、愛知県のにやっているということです。ベースとしては尾三衛生組合の三市町は分別を進めて、ごみ減量にもこれから進んでいくという共通の課題として取り扱っておりますので、追加でご説明させていただきました。</p>

部会長	焼却処理量の減量ですね。
事務局	尾三衛生に持ち込むイコール焼却物を減らしていくというところですね。
部会長	ごみ量を減らすという要点は何ですか。
事務局	ごみ全体量が減れば一番なんですが、リサイクルは各市町で行いつつ、尾三衛生に持ち込む焼却量をできるだけ減らしていくと。それは、灰を処分する量を少しでも減らし、埋め立てに回すものを減らしていくというのが今後の大前提です。
委員	焼却のごみの減量の中で、私、今一番思っているのが、グループ活動の中で、これはまだ皆さんに定着していないと思うのが、紙の分別なんですよね。それで、これから時代が変わっていくにつれて、プラよりも紙製品の包装容器が増えていくのではないかなと思うのですが、そういったものも分別をやってもらいたいと思っています。プラのほうと、今のコロナの関係でプラスチックのごみも非常に増えているのではないかなと思うのですが、紙のほうに変わっていく、ヨーグルトなんかはプラスチックだったのですが、紙も増えてきたと思っているので、そういった紙の容器というのも分別してもらいたいと思います。それから、紙の雑古紙にしても、実は紙として出してはいけないものもあります。そういうものをちょっと市民に教えて啓発していただいて、それで雑古紙のほうもきちっと出していききたいと私自身は思っています。
部会長	大変重要なお指摘だと思います。今回のアンケートの中に未来志向の内容は特にありません。今おっしゃっていただいたような、時代の変化を予測してどうするかというような言葉がないのと、そもそも、この新聞の記事を付けていただきましたが、プラスチックの分別はいいのですが、その前にプラスチックを使わないようにしましょうということも必要なら、そういうメッセージを下に載せます。それで、紙が増えると思いますが、それもちょうどリサイクルするようにしたい。それはセットで伝えるように内容というのはあるべきではないかと思っています。このアンケートはそういう意味があるとは思っていません。これだけ見ると、プラスチックは分別すればいい、だから使ってもいいということは書いていませんが、ただ「分別しましょう」ということだけ書いてあって、使用量を減ら

	<p>しましようというメッセージはどこにもないということ、これを見て思ったので、更に今のご指摘にあった紙の量が増えていく可能性があって、最初に配っていただいた資料の中に、紙のリサイクルを推進していくということも含めてその内容はあると、それこそ整合性があると、今の時代の流れにもしっかりと対応するということを皆さんにお伝えしていくことも、あるいは今の意識を言葉にするといいかないと思います。</p>
副部会長	<p>例えば、今の話でアンケートに反映させるとすれば「紙容器とプラ容器のどちらを選びますか」みたいな、そういうアンケートですよ。できるだけプラ包装を止めて紙包装を選ぶようにするというような項目がどこかにあったら良いのではないかと思います。加えて前回の協議で、紙の分別に対して検討をするようにという話があったわけです。そうだとすれば、内部的にどんな方法を練り出すというような施策レベルのアイデアなりがアンケートにあっているのではないかと思います。まだ固まったものじゃなくてもいいので、例えば紙容器包装回収などといったものがあつたほうがいいのかどうかとか。牛乳パックとかはやっていたりするじゃないですか。</p>
事務局	<p>エコドームでは分けていますね。</p>
副部会長	<p>どういう分別方法があるのかよく分からないので、分別方法がどういうのが取り組んでほしいことに今入っているとか、そういうふうにアンケートに反映しているということではないかと思います。</p>
事務局	<p>まず今、展開しているのは、例えば名古屋市や、瀬戸市もミックスペーパーだとかコーティングしてある紙だとか、そういったいろいろな紙の分類をすることをやってみえますので、そういったところを参考に考えてはいます。今回も資料2で説明させていただいたA、B、Cと分けて、Cで紙類の分別の施策に進めるための問いかけになっているかどうかを改めて精査します。</p>
副部会長	<p>そういうことがあつてのそれが反映されて、計画のほうでは「では、そういったところを見て走りましょうね」という、一つ施策が入っていくというのがやはりあるべき姿じゃないかと思いますので。</p>
事務局	<p>重点的に分類するのであれば、紙容器包装です。組成調査をやっても、かなりそちらに回せる分量とかが</p>

	<p>多い結果が出ていますので、自然環境の保全ということからすれば、パルプを少しでも余分に使わないということを考えれば、焼却せずに再資源化に回していくということを今回は重点的に考えてはいきたいと思っています。それが進められるような方向への導き方の問いかけ方という考え方でちょっと。</p>
副部会長	<p>それはぜひ検討いただいて、設問として決めていただいたほうがいいと思います。</p>
事務局	<p>これは、絶対やればそれなりの形の結果が出てくる施策だとはとらえていますので、何とかやっていく方向で検討したいと思います。</p>
副部会長	<p>そういうの付けるとどんどん増えてしまうので、これはもういいなというものはどんどん減らす方向で。</p>
事務局	<p>そういう意味では、担当が思っているマックスが今の形かなと思っていただければ結構かと。</p>
部会長	<p>紙容器に関しては、私はもうすべきことだと。紙容器包装リサイクルのマークが付いているものを出すということですね。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
部会長	<p>瀬戸市はミックスペーパーを出していますが、何でもいいということでこういうを出してくださいということなのですが、多分よく分からないのではないかと。ですので、実は全然進んでいないのですが、このマークが付いているものを出すというほうが多分分かりやすいのではないかと。</p>
事務局	<p>まず、第1優先は今おっしゃっていただいた紙のマークを付いているもの、例えば贈答品の箱やお菓子の入っている箱ですね。ちり紙だとかいったん汚れてしまった紙は雑紙というような言い方をされていて、これを再資源化できるという事業者さんもいるのですが、実際それをサイクルに回していくのかというのは、かなりいろいろ課題がありますので、まずは簡単な判断のしやすいリサイクルマークの付いているものだけでも減らしていきたいと考えています。</p>
部会長	<p>ステップがありますからね。段階を追って、新しいところから。</p>
事務局	<p>いっぺんにはなかなか皆さん混乱されると思いますので、段階的に。今の容器包装プラにつきましても、リサイクルマークが付いているものということで進めております。分かりやすいものから始めて、次の段</p>

	階へということやっていきたいと考えています。
副部会長	少なくとも、そのマークを知っているかどうか聞いたほうが良いと思います。
事務局	また1項目増えますが。
副部会長	「これ、ご存じでしたか」とか、「見たことはあった」、「知らなかった」といろいろ。
事務局	なかなか、マークが入っていて下に「PET」とか書いてあっても、それが何のことだかあまり皆さんご存じないです。あのマークの見方というのがなかなか分かりにくいのは確かにあります。そういう意味では、今プラスチックでも例えばペットボトルというのは、蓋もいろいろ完全にリサイクルに回せるように、大きさや材質が規格に統一されているようです。そういったものはそういったものでまず分けて扱っていくと。
部会長	でも、それすら知らないです。
事務局	知らない方も多いです。
部会長	一緒に出していかどうか迷ってしまいます。
事務局	そういったものは、できるだけ環境新聞のようなものでそういった情報も出していくように、施策として今いろいろやっているところです。
委員	今回の目的が資源化と減量化ということで、今のところは資源化という話だと思いますが、組合の立場から言わせていただきますと、減量化というのは圧倒的にうちのほうに入ってくるものでは、厨芥類が一番多いです。それで、減量化で1番目に見える数字というのは、やはり重量になってしまうので、三つの町で年間の去年の平均ですと今、45%は水分が含まれているという組成調査の結果が出ております。
部会長	それはごみ全体ですか。
委員	尾三衛生組合は組成調査を年に4回やるのですが、紙とか全部入れてその中に含まれている水分量が。
部会長	プラを除くんですか。
委員	燃やすごみ、例えば日進さんでいうと青いごみ袋で集めて、その中から抜き出して、そのごみの中をいろいろ紙類とかプラとかに分けるんですけども、その中に水分45%ぐらい含まれている結果が出ているということです。ですから、例えばごみ減量で1番目に見える重量を減らすには、例えば厨芥類を乾燥させて皆さんが出していただければ、重量はかなり減りま

	<p>す。そうすると、今度は分担金、重量が結構分担金にかかってきますので、分担金も減るといことが考えられます。</p>
事務局	<p>一応確認ですが、尾三衛生に入ってくる粗大ごみとかは分けておいて、あくまでパッカー車で運ばれる燃えるごみの中だと、青い袋に入っている中の45%が水分ということですね。</p>
部会長	<p>半分が水分ということですか。</p>
事務局	<p>実際に、尾三衛生はその水分を飛ばすためにエネルギーを使っているということになりますので、そういった無駄なエネルギーをとということから、今回はAという項目で「水分の削減」というのは、結局その部分に向けたものです。</p>
委員	<p>もう一つ話があるのですが、例えば、日進市のデータをお持ちしたのですが、年に4回、それぞれの町の組成調査を行うのですが、一応地区ごとに分けて日進市の地区から来るごみをなるべくいろんな地区を取ろうということ、去年も4カ所、可燃ごみを調査して、結果がその中に厨芥類は33%ぐらい含まれています。結局、それは水分がかなり多いので、重量的にもかなりウェイトを占めているので、そういったところをもう少し水分を抜いていただくと、かなりごみの減量ということになりますし、もっと進むと分担金、お金も減るといことが考えられます。</p>
副部会長	<p>p 6に「生ごみ減量の取り組みについて」に燃えるごみの約40%は生ごみとありますが、水分量はないですね。40%が生ごみだとすると、水分はもうちょっと少ないということになるので。</p>
部会長	<p>いえ、生ごみの9割ぐらいは水ですよ。</p>
事務局	<p>40%のうちの45%ですよ。</p>
委員	<p>燃やすごみの中を、例えば200kgのごみを組成調査に使って、それを乾燥させると45%が水分でしたよという結果になっているんですよ。</p>
副部会長	<p>それは分かります。しかし、p 6の元年度調査での、これは日進市の調査だと思うので、ちょっと全体数が違うんでしょうね。だから、少なくとも40%近くの水分ですよということになるので、生ごみがありますがそういう意味ではそのほとんどが水分なんですね。書いたほうがいいかもしれません。</p>
事務局	<p>この40%というのは日進市の組成調査の数値です。</p>

委員	<p>生ごみとして、食べられる、食べられないは抜きにして、食品は40%ありますよと。尾三衛生さんはそれを濁かした結果、45%分の重量が抜けたから水分は45%だよということで、乾いたニンジンの重量はやはりあるわけで、それは45%に限りなく近いということですよ。だから、生ごみの40%も合っているし、この中の抜けた水分量45%も合っているということですよ。</p>
事務局	<p>今回お伝えしたいところは、結構、水分がごみとして出されて、焼却場に運び込まれるという事実です。</p>
部会長	<p>この議論は過去でもありましたが、どういう方法があるかということ。燃えないごみの袋をなくそうとか、そちらも重点的に進めたいと。</p>
事務局	<p>施策としては、コンポストとか生ごみ処理機の利用推進があります。もう少し他の手も考えているところなのですが、一番いいのは袋に蓋をしてしまう前に自然乾燥すると何%水分が抜けるのかということです。この辺のデータのなものも今後必要になって、研究していくところかなと考えており、皆さんにあまりご負担をかけずにどうやって解消するのかというのを今後考えていきます。</p>
委員	<p>ここの設問の中に「三角コーナーで減量している」という項目があるのですが、ほとんど三角コーナーって使っていないんじゃないかなと思っています。今、私の知っている限りでは、三角コーナーは流しの中に入れて使うもので、濡らさなくてもいいものまで濡らしてしまうという傾向があるので、それでほとんどの家庭では三角コーナーは使っていないと思うんですよ。それで、最終の排水溝の中にストッキング用のネットのごみ受け、小さいものまで受ける。ほとんどの人はそういうものを使っているんじゃないかというふうに思いました。調理実習とかをやる際に、私自身「三角コーナーじゃなくてこれに入れてください」と手作りの新聞紙のごみ受けに入れるようにしているのですが、これだったら出さなくて済むので。後細かいのは、ネットを持って行って、そこに入れてぎゅっと絞ってごみとして出してあります。今、皆さんに清潔ということをすごく思っていて、わざわざ濡らさなくてもいいものを濡らすような人はいないと思っています。ごみとして出して、日にちが経つとごみの袋</p>

	<p>の水分が出てくるという、そういうものなのですが、それを何とかしたいなと思うのですが、グループの人たちとワークショップに行った時に、スイカの皮なんかは干しているという人がたくさんいました。みんな、減らししているんじゃないのということで、これ以上、水分を減らすとなるとすごく頭が痛いです。生ごみを出す前に乾燥させて、袋に入れてというのが、夏なんかだと腐ってしまうのではという思いがあるのですが。腐っていようが、水分って少なくなるんじゃないでしょうか。</p>
事務局	<p>やはり、家庭から出る生ごみの水分が含まれるというのは、どうしてもキッチンかと思います。今、おっしゃっていただいたように、流しの周りで、その段階で細かな分別をするかどうか、結局、濡れなくていいものまで濡れてしまいます。一応、これまで市がやってきた施策としましては、生ごみの袋に入れる前に、その水気を取ってもらうための水切りネットを配布させていただきました。燃えるごみの袋に入れるまでの課程で、いかに水分をこの袋の中に入れてないようにしていくかということのをこれからはいろいろ工夫していかなければいけないと考えています。あまり負荷がかからない、簡単にやれる方法というのは頭が痛いところです。その段階で皆さまにやっていただくということが大切です。いったん、袋の中に、ポリバケツの中に入れてしまうと、なかなかご自分の家庭から出たものでもこう手に触りたくない。</p>
委員	<p>そこが問題なんですよ。夏だとちょっと腐敗しているんで、触りたくないです。</p>
事務局	<p>もうちょっと先の話なのですが、スイカの皮も何日ぐらいで何%ぐらい軽くなるのか、私もちょっと家で実験なんかをしているのですが、なかなかいろんな課題はあります。虫が寄ってくるのかもありますので、それをどのように解決するかですね。いろいろ試しているところです。</p>
副部会長	<p>ボリューム的には食品ロスではないでしょうか。その辺のデータはないでしょうか。実際に料理をしていると、出る分量というのはある意味知れているので。</p>
事務局	<p>カスの分はありますね。</p>
副部会長	<p>そうではなくて、例えば買っておいたパックが食べられなくなってそのまま捨てたとか、そちらのほうが</p>

	多分、水分量としてはかなり多いと思うんですけども、データの的には重量ベースで。
事務局	調査では、手つかずの生ごみが 3.34%、それ以外の生ごみが 36.84%となっています。
副部長	そうすると、食品ロス自体は少ないみたい。
事務局	分類的に手つかずと、本当に冷蔵庫の中で腐りかけた野菜とか、その辺の分類をどういうふうに分けているのかがこの結果だけではちょっと分かりにくいので。
事務局	作りすぎて食べきれずに捨ててしまったという、手つかずではない。
副部長	ないですね。ちょっとそこら辺もあるのですが、料理をしていた時の生ごみももちろんあるのですが、食べられなかった食品、いわゆる食品ロスの部分というのは、それなりに大きなものではないかという想像があるので、そういった点ではアンケートの構成は食品ロスについて注目した説明にはちゃんと重視されていますので、こういうことは重要だと思います。できれば、そういった食品ロスから見た時の、実際の廃棄物の分類が分かればより精密に計画のほうに反映できると思うので、またデータの精査ができるのでしたらお願いします。
事務局	組成調査のほうでその辺をちょっと注意します。
部長	日進市も一人 500 g ぐらいですね。ペットボトルのキャップ 1 杯はすり切れで水の量が 7 g、7 ml。それだけ水を絞って、ごみに出せば 1%減る、大体そんな感覚ですよ。だから、さすがに絞った水をキャップ 1 杯で何杯といってもあれですが。
事務局	今、愛知県はいちご一つとかいう表現をしています。
部長	そういう伝え方をすることがやっぱり自分の行動の物差しという、あるといいなと思います。そういったことも考えて、アンケートをやるかという気持ちで。「そんなに一生懸命がんばらなきゃいけないの」と、まだコンポストの話があるので、私はちょっと抵抗があるのですが。コンポストに入れてくれというようなアンケートなので、どうかと思っているのですが、そんなにがんばらなくてもちょっと水を絞ってもらえれば、2、3%減りますからというぐらいで、検討を進めていけばいいのではないのでしょうか。

事務局	実際の今後やっていく施策の中で、市民に向けての周知の仕方については、そういう何かの目安というものは意識して、ご協力お願いしますという方向には進めていきたいと考えています。
部会長	だから、どれくらいだったら協力してもらえるかとかいうことを聞いても、これを見ると「がんばってね」とか「あなたががんばっていないでしょう」というメッセージしかないから、だから日頃どこまでのことを気にしているかということ。これくらいだったらできるかなということであれば。コンポストは多分無理ではないかと思います。だって、入れないでしょう。
委員	コンポストや何とかというのは、やはり家族が少なくずっと貯めておいて、やったけど貯まっていけないといけなくて使いにくいという。いくら、補助していただけるということがあっても、やはりこちらのほうには目は向きません。
部会長	5年ぐらいで壊れてしまいます。結構早く壊れてしまうので、うちは2回買いましたが、2回とも壊れてしまいました。
事務局	環境問題が問われる中で、エネルギーの消費ということから考えると、あまり電化製品を使うことを進めたくはないということもあります。
部会長	結局何をすればいいのと。
事務局	順々に。
部会長	皆さんどう思っているか分からないですが、アンケートに入れるということは「使ってください」というメッセージですよ。
委員	「乾燥させて出してくださいよ」というのを、ここでも。処理機を利用してというところで、乾燥させて出してほしいというのがあったらいいと思って。
事務局	意志はそういうことがあります。
副部会長	私もコンポストはどうかと思っています。
事務局	もっと簡単に水分を飛ばす方法はないかと考えているところなのですが、なかなか上手にいきません。簡単に、ほっといてもできるようなやり方というのがあれば一番いいのですが、なかなかそういうのは難しい。
部会長	捨てる時にぎゅっと絞ってもらっただけでも違うかと。
事務局	そういう意味では先ほどおっしゃっていただいた、

	1食あたりどれぐらいの水の量を切っていただければというほうが、確かに分かりやすい部分があるかなと思います。
部会長	ネットに入れるだけでも違うと思います。それか1切れだけでも食べましようとか、そのほうが分かりやすいんじゃないかと思います。
委員	でも、皆さんごみというのは三角コーナーでも何でも、そのまま違う袋に入れて出すんですか。三角コーナーに袋があり、そして出すんですかね。説明がしにくいのですが、ザルになっていけばそのまま水は流れていくので、例えば我が家はキッチンにシュレッダーがついていて、そのままシュレッダーかけて流してしまうのですが、一部残ったものはそのままごみ袋の中に入れます。結局、入れるビニール袋がもったいないからそのまま入れてしまうのですが、これだったら水はほとんど出ないですよ。何か袋に入れれば袋に水が溜まり、それがそのまま流れていってごみになるので、はなから何もない状態のところにごみ袋を入れれば、そんな水はないのにと私は思うのですが。
部会長	他の市町のごみの組成調査は私も年に1回行っているのですが、本当に開けちゃってやっているのですが、大体は袋に入っています。それも2重ぐらいにして。
委員	ですよ。それを開けると水が流れ出て、これがなければ。
部会長	それも匂わないようにという、皆さんからの配慮。だから全然観点が違って、実態はそうです。
委員	そうなんです。そのところでまた、結局それがビニールごみになって、リサイクルできないものになってということがあるので、そういうところのごみの入れ方ができないかなと悩みます。
事務局	そこで自動的に水を絞っていただけるような、キッチンのシステムだといいいのですが。
委員	うちはそれで、全てのものがシュレッダーにかかって、下に流れていって、水と分離されて、そのカラカラに乾いたごみだけが出ると。
事務局	もう乾燥したものだけになるのですね。
委員	そのまま入れるということでもいいです。
委員	先ほどちょっと説明があった、町から頂く分担金の規約改正で、来年からはもうちょっと関係なくなるん

	<p>ですけど、今年までは日進さんから入ったごみの重量で、それをパーセントでお金を頂いていました。ですが、この議会で通って規約改正で来年からは搬入した時にお金をもらったごみについては、もう分担金の数量から抜くという規約改正になって、今までは実際、例えば造園業者さんが持ってくる草とか剪定枝、そういうものまで日進さんの搬入量の中に含まれたので、結局、そこの生ごみと一緒に草とか剪定枝にもものすごい水分が含まれているわけです。そういうのを業者さんに乾燥させてから搬入させていただくというふうになると、かなりの重量は削減できます。ですが、お金のほうは来年度からはもうその部分は計算式が入らないので、家庭からのごみということで、計算されるので、ちょっと変わるのですが、それも結構大きいと思います。今まで、草とか木の水分があったというのも重量にかなり関係していたと思います。</p>
副部会長	<p>戸建て住宅とか庭付きの家から出る芝生とか剪定木とかありますよね。あれって、まずこの組成調査の中に入ってこないですよ。</p>
事務局	<p>入っています。</p>
副部会長	<p>それはどれぐらいなんですか。それって結構あるような気がします。そういえば見たことがあります。</p>
事務局	<p>木は、そのまま出てきますから、やはり水分は含んでいますので、重量的には多いかなと思います。ちなみに、私は切って袋に入れ、口を縛るとすぐ中が水分でいっぱいになりますので、2、3日は口を閉めずに水分を飛ばしてから出しています。</p>
副部会長	<p>もしかすると、芝刈りの草を乾かしていますかとか、堆肥にしていますかという項目が要るのかもしれませんが。それを、そのまま捨てられてしまうと結構ごみになってしまいますよね。</p>
委員	<p>例えば、尾三衛生組合が持っているデータでは、去年の日進さんからの草ごみが個人の方から持ってこられているのが1,266トンぐらい、日進さんの個人の持ち込みで持ってこられています。</p>
副部会長	<p>全体はどれぐらいですか。</p>
委員	<p>全体の草ごみだけですと1,452t、日進さんから全体で入ってくるのは22,151tのうち、草ごみが1,452トンあります。それは業者さんも含めています。</p>
事務局	<p>これは、計画収集は入っていないということです</p>

	ね。
委員	計画収集では草ごみは入っています。
事務局	直接持ってくるのは。
委員	個人の方が直接持ってこられる分と、業者さんが持ってこられる草ごみ、合わすと 1,452 t が去年は入っています。
副部長	個人は 2 万 t のうち、千 t ぐらいのイメージですか。
委員	1,452 t なので 1,500 t ぐらいです。
会長	瀬戸市は 4.1% です。5% 弱ぐらいで大体一緒ぐらいです。
副部長	それは思ったより多いですね。
委員	私も家のごみがあるので、たまに個人で持っていく時でもやはり、乾燥して持っていった時と、ちょっと雨などで濡れた時だと、同じ年の分でもかなり重量が変わってきてしまいます。
副部長	その話は、何とかできそうな感じですね。少なくとも、剪定木の取り扱いについての項目があってもいいかもしれません。草とかどういうふうにしているみたいな。どこに入れるのかはよく分かりませんが。要は、削減できそうな部分というのが乾燥ということからすると、キッチンから出るごみ、それから食品ロスの部分、それから今の植物、剪定ごみや草というのが水分の大元だとすると、他に。水って本当に余分なものなので、ターゲットにしなければいけないと思います。水分の削減という、そういう方針から行くと。それはそれぞれ、ターゲットをやはり決めていかないといけないような気がします。
事務局	尾三衛生さんに伺いますが、例えば公共事業の草刈りのものもそこにはカウントされますか。
委員	それは分けていますね。
事務局	それは含めていないということですね。
委員	個人の方がお家とか直接搬入されるのが 1,400 t ということです。
事務局	事業者さんというのは別ですね。
委員	事業者さんは別個であります。
副部長	1,400 t というのは 2 万 t のうち、1,400 t でしたらそれなりの量なので。
委員	事業者さんは 140 t ぐらいが草ごみで去年も搬入されています。

副部会長	ちょっとまた別に考えないといけないかもしれません。
委員	すみません、ちょっと不足していました。直接持ち込まれるのも、町から許可が出ていなくて1日許可が出たものは今の中に含まれてしまいます。年間で許可が出ているものは年許可としてカウントされていて、許可を持っていなくてその日に1日の許可でもらっているものは1日許可に入っているのです、それも含めて1,265tということになります。だから事業者の分もその日に出たものはそこに入っています。
委員	河川敷とかで刈られた草なんかの場合によっては、そこの中には入っていると。
副部会長	そういうことですか。ちょっと分かりにくいですね。
事務局	個人の家から、会社さんからだけというのは基本的にはないという。
副部会長	それでも数百tですか。全体の数%ですね。ちょっと微妙ですね。
事務局	水分もそうですが、剪定ごみのリサイクルというのも三市町でいろいろ過去から協議しています。どうやったらリサイクルに回せるか、というのは、共通の課題として取り組んでいます。
副部会長	そうでしょうね。そうやって、受け入れ側のほうでリサイクルが可能な施策があれば、それに市民がどうやって減らすとか考えると思います。
部会長	安城市はチップにしていますよね。それは家庭からのほうもしているか分かりませんが、チップや堆肥にして市民に「どうぞ使ってください」と、そういうことはしています。見に行ったことはありますが、しっかりとしたヤードが必要です。後、チップにする機械も安くないですし、結構壊れるので、そういう結構お金がかかるそうで、そういう市もあります。
委員	例えば、先ほど豊田市と言われたのですが、豊田市はそういう施設を持っていて、個人の方が。
委員	持って行って堆肥にしていますね。
委員	後、学校の給食です。残菜を合わせて、堆肥を作って、農協とか市民の方に販売という施設を豊田市は持っています。
副部会長	いいですね。

委員	豊明市もやったのですが、経費がかかりすぎて止めてしまいました。
部会長	この中でどれを当面、5年ですか。今、議論あった中で、5年間で全部できませんから、一つに絞ってこれというのを。多分、容器包装の紙、そういうのをちよっとお願いできますか。
事務局	まずそちらを重点的に考えます。
部会長	判断した上で。
事務局	後は、とにかく全体の重量を減らすことに取りかかります。
部会長	そういうことと、その後の項目に紙を追加する。後、プラも。今時の問題ですから
委員	プラも要るでしょうね。いろいろありますし。
事務局	プラも愛知県からも情報をもらったのですが、国の方針としては今年度中に何らかの方針を示すということで、実際、国のほうはもういろんな中間の処理施設のほうにいろんな設備を更新するように交付金を出すとかそういう情報も出ていますので、今後も情報を集めていきます。
部会長	それでは、このアンケートの中にこれを見越して入れますか。でも、実際に運用されているのでこれをもっとしっかりとしてください、というメッセージを出すのでしたらついでに。
事務局	より一層、日進は取り組んでいくという形にはなっています。
事務局	<p>全体のアンケートのページ数にも関係してくるのですが、前回のアンケートの中に市の現状のページとごみがどのように流れていくかというページがありました。今回お配りした案にはそれは入っていないのですが、その部分を入れたほうが分かりやすいと思います。</p> <p>前回のアンケートを行った時には、ごみがどういうルートでどこへ流れて処理されているのかという部分だけを破って、ご自分でそれを保管し、アンケートだけ返送していただいたケースが結構ありましたので、皆さん意識が高いということだと思えます。また、前回は送って今回は送らないのもおかしな話ですので、追加をさせていただこうかと思っています。</p>
副部会長	追加したほうがいいと思います。ぜひ追加してください。

事務局	大事なところで、皆さんの意識が高いところかなと思っています。基本的に、先回と今回が違う場合は、変えたところの理由を明確にするようにします。
副部長	これは重要なことなので、分かった上で回答してもらいたいです。
委員	それはこうやって書くだけよりも、そういうのがあれば「ああ、こういうふうだ」というのが分かりますから、あったほうがいいです
部長	文字を大きくしてください。読むだけでも大変です。
事務局	全体的にできるだけ文字も減らすよう検討します。
副部長	部長の権限でやっていただくのも一つの方法ではないかと。
部長	説明文だから、その辺のところをちょっとぐらいでしたら。
事務局	相談しながらやっていきます。1 ページでも減らしていきます。
部長	個別がちょっと多いですね。その中の選択肢がちょっと多いので、その辺を絞って。
事務局	人間が集中できるのは大体何分が限界なのかというのを考えて、発行していきたいと思います。
部長	子どもでしたら2分ですよ。3分向けていられないです。
事務局	全体を整理していきます。
委員	最後の p 13 のところなのですが「返信用の封筒でご返送ください」と書いてあるのですが、私はこれを頂いてから自分で書いてみたのですが、いつまでに返送するのかと思って表を見て確認したので、ちょっとこの期限があるので、「何月の何日まで」とくどいのですが書いていただけるといいかなと。
事務局	前へ戻って探す時間を省くためにも、最後に念押しで書いておきます。
副部長	大事なことです。ぜひ返送用の封筒のほうにも「何月何日まで」と入れておいてください。
事務局	封筒そのものにも入れます。
副部長	エラー防止になるので。
委員	私もこの質問については、曖昧な回答をする場所が多すぎて返って悩んでしまいますし、長いのでできるだけイエスカノーで答えたいです。先ほどの問 21 だとかも、「ちょうど良い」、「もっと増やすべき」、「少

	なくても良い」、「少なくとも良い」というよりもむしろ「もっと減らすべき」とか言うほうが回答としてはしやすいのではないかと。あまり悩まずに丸が打てるようなものを作ってほしいなと思います。
事務局	微妙な、どちらか悩む回答が多いということですね。分かりました。
部会長	1から5までであると回答しにくいです。 他にいかがでしょうか。では、言い足りないところは事務局にお伝えください。
委員	紙容器包装でこういったことをするのは大変です。これは紙容器包装で管理マークが付いていますが、ストローが入っているビニールはプラ容器包装と書いてあって、ストローそのものは可燃ごみですから、分けるのもかなり大変ですし、これを出す時でも、飲み終わったら別に何をすることもなくそのまま出されると、中に液体が入っていますから基本的にリサイクルできないものになってしまうので、その辺をどうするかが結構大変だと思うので、先ほどの紙容器をやるという話に「本当にやるのかな」と思いながら。
委員	これはリサイクルできるのですか。
委員	できると書いてあるだけで、実際にできるかできないかはRPFという固形燃料になります。これは紙とプラスチックを混ぜて燃料にします。皆さんが思っているような、もう一度紙にリサイクルされるのではなくて、燃やされて終わりということになりますので、燃やす先が発電の燃料になるだけで、別にクリーンセンターで燃やされます。なので、なかなか大変です。
事務局	実際に、名古屋市がかなりこれを拾い出すのに大分年数かかっていたので、そういうところは覚悟が必要です。
委員	ですよね。今、多分、こういった実際に紙容器包装を容器包装リサイクルルートに乗せて、リサイクルするのを愛知県内でやっているのは、名古屋市と豊明市だけの2市だけだと思います。よそはその名前は使っていますが、きっと他のリサイクルの姿をしているはずですよ。
副部会長	大変ですが、アンケートをもう一度見直してください。よろしくお願ひします。
部会長	その他、ございましたら。
事務局	次回の運営部会は、11月6日金曜日の午後1時3

	0分からです。会場は日進美化センターでさせていただきますので、よろしく願いいたします。
部会長	では、他になければ今日は運営部会をこれで終了したいと思います。よろしいでしょうか。では、お疲れさまでございました。